

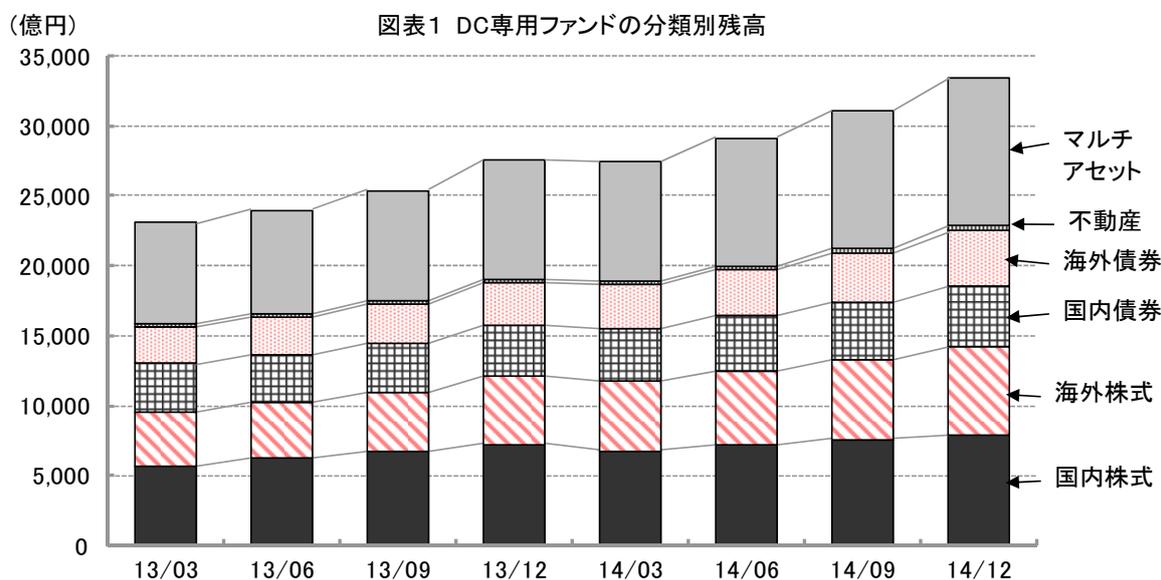
確定拠出年金専用ファンドの動向(2014年12月)

2014年度第3四半期の確定拠出年金専用ファンドの残高は前の四半期に比べ、2,349億円増加し、3兆3,439億円になりました。収益率は全てのファンド分類でプラスとなり、不動産投信型や海外株式型では10%を超える高いパフォーマンスとなりました。資金流入を見ると国内株式型と海外株式型から資金が流出しました。反対に資金が流入したのが国内債券型、マルチアセット型、不動産投信型で、中でも不動産投信型やマルチアセット型の一環であるリスクコントロール型と呼ばれファンドに流入する資金は残高の割に多くなっています。

確定拠出年金専用ファンドの残高

2014年度第3四半期(10月～12月)の確定拠出年金(以下、DC)専用投信¹の残高は前四半

期に比べ2,349億円増加し、3兆3,439億円になり、3四半期連続で過去最高額を更新しています(図表1)。



出所)野村総合研究所

¹ DCにおける投信残高の凡そ9割は、DCだけのために特別に設定されたDC専用ファンドといわれています。

野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。

ファンド分類別にみると、前四半期末に比べ、全ての分類で残高が増加しています(図表2)。特に増加額が多いのは、海外株式型やマルチアセット型で、それぞれ680億円、673億円も増加しています。また海外債券型や国内株式型でも増加額が目立っており、それぞれ361億円、345億円増えています。

分類別残高構成をみてみると、マルチアセット型の割合が最も高く、全体の31.4%を占めています。2番目に残高の多い国内株式型は全体の23.7%ですので、上位2タイプだけで全体の55%を占めていることとなります。

次に、株式型ファンドと債券型ファンドという切り口で残高をみてみましょう。株式型(国内株式型と海外株式型)と債券型(国内債券型と海外債券型)の残高割合はそれぞれ42.7%、24.6%となり、前の四半期に比べて、前者は0.1%増加し、

後者は0.1%減少しています。

また、国内資産(国内株式型と国内債券型)を中心に運用するファンドと海外資産(海外株式型と海外債券型)を中心に運用するファンドに分けてみると、国内資産を中心に運用するファンドの残高割合は、36.7%であり、前四半期から1.0%減っています。逆に海外資産を中心に運用するファンドは前四半期から1.0%増加し、30.5%になっています。

さらに、株式ファンド(国内株式型と海外株式型)と債券ファンド(国内債券型と海外債券型)を対象にアクティブ型とパッシブ型に分けてみると、パッシブファンドの残高割合は、74.1%となっています。パッシブファンドの割合は2013年度第3四半期(2013年12月末)の72.7%を底に徐々に増えています。

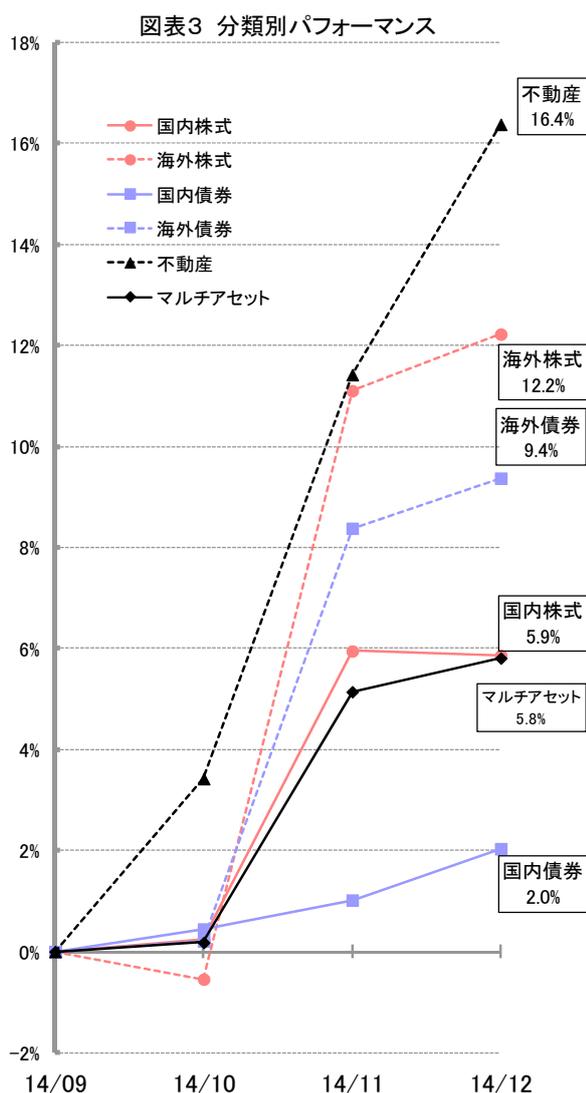
図表2 DC専用ファンドの分類別残高(億円)

	13/03	13/06	13/09	13/12	14/03	14/06	14/09	14/12
国内株式	5,732	6,270	6,709	7,231	6,788	7,190	7,573	7,918
アクティブ運用	2,199	2,428	2,613	2,863	2,666	2,822	2,969	3,082
パッシブ運用	3,533	3,842	4,097	4,367	4,122	4,368	4,604	4,836
海外株式	3,831	3,936	4,246	4,913	4,947	5,255	5,665	6,344
アクティブ運用	980	1,010	1,092	1,262	1,256	1,316	1,379	1,531
パッシブ運用	2,850	2,925	3,154	3,651	3,691	3,939	4,286	4,814
国内債券	3,432	3,411	3,520	3,635	3,776	3,995	4,153	4,347
アクティブ運用	557	548	565	580	600	619	643	674
パッシブ運用	2,874	2,863	2,954	3,055	3,176	3,375	3,510	3,673
海外債券	2,664	2,743	2,810	3,053	3,125	3,245	3,505	3,866
アクティブ運用	391	397	406	429	438	448	480	526
パッシブ運用	2,273	2,346	2,404	2,624	2,687	2,797	3,025	3,340
不動産	229	187	215	225	229	287	355	451
マルチアセット	7,181	7,428	7,867	8,496	8,551	9,150	9,839	10,512
バランス型	7,013	7,250	7,661	8,239	8,242	8,747	9,251	9,826
ターゲットイヤー型	108	113	121	132	133	142	151	162
アセットアロケーション型	60	65	85	125	176	262	437	524
残高合計	23,068	23,976	25,367	27,552	27,418	29,121	31,090	33,439
残高割合								
国内株式	24.8%	26.2%	26.4%	26.2%	24.8%	24.7%	24.4%	23.7%
海外株式	16.6%	16.4%	16.7%	17.8%	18.0%	18.0%	18.2%	19.0%
国内債券	14.9%	14.2%	13.9%	13.2%	13.8%	13.7%	13.4%	13.0%
海外債券	11.5%	11.4%	11.1%	11.1%	11.4%	11.1%	11.3%	11.6%
不動産	1.0%	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%	1.0%	1.1%	1.3%
マルチアセット	31.1%	31.0%	31.0%	30.8%	31.2%	31.4%	31.6%	31.4%

出所)野村総合研究所

野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。



出所)野村総合研究所

分類別パフォーマンスの推移

図表3は2014年度第3四半期中におけるファンド分類別累積投資収益率の推移です。見て分かるように、全ての分類で収益率はプラスになりました。国内株式相場の上昇や長期金利低下、日銀によるREITの買入を受けて不動産投信型の価額は16%以上も上昇しています。また円が対ドルで10円以上安くなったことにより海外株式型や海外債券型の価額はそれぞれ、12%、9%程度上昇しています。10月に下落した国内株式にしても、11月に相場が好転し、四半期では6%近く価額が上昇しています。また、長期金利の低下により国内債券型の価額も2%上昇しました。

分類別資金純流入額の推移

図表4は、2013年度第3四半期から当四半期までのファンド分類別の純流入額(設定額-解約額)の推移を表したものです。

昨年度第4四半期(14年1月~3月)から今年度第2四半期(15年7月~9月)にかけて毎期500億円を超える資金が流入してきましたが、当四半期は159億円の流入に留まっています。

分類別にみると、国内株式型が2四半期連続で資金流出となり、特に当四半期は100億円を超える資金が流出しています。また、海外株式型も当四半期に12億円の資金が流出しました。

図表4 DC専用ファンドの分類別資金純流入額(億円)

	13/10~ 13/12	14/01~ 14/03	14/04~ 14/06	14/07~ 14/09	14/10~ 14/12
国内株式	-103	84	58	-63	-106
海外株式	14	87	132	104	-12
国内債券	111	115	192	138	109
海外債券	10	60	103	89	31
不動産	4	7	36	52	37
マルチアセット	119	243	370	352	99
資金純流入合計	155	596	891	672	159

出所)野村総合研究所

野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。

一方、国内債券型には109億円が流入し、2013年度第3四半期(10月～12月)以降、100億円を超える資金流入が続いています。またマルチアセット型はリスクコントロール型²と呼ばれるファンドを中心に資金を集め、流入額は99億円

に達しています。不動産投資への資金流入額は37億円と金額はさほど多くはありませんが、残高に対する四半期の資金流入額は8%を超える状況が今年度に入って続いています。

弊誌の記事はバックナンバーも含めてホームページでご覧頂けます。当ホームページは、年金スポンサー限定のサービスとなっております。ご利用を希望される方は、次のURLにてご登録をお願い致します。

<http://nenkin.nomura.co.jp>

編集: 野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター、
野村資本市場研究所、野村総合研究所

発行: 野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター
(年金マネジメント研究会事務局)

〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2
アーバンネット大手町ビル

TEL: 03 (6703) 3991

FAX: 03 (6703) 3981

Email: nenkin@jp.nomura.com

— 次号のお知らせ —

次号は

2月9日(月)

発行予定です。

² 相場状況に応じて資産クラスの配分を変動させることにより全体のリスク量を制御するファンドタイプ。

野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されました御客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。

野村証券からのお知らせ

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.404%(税込み)(20万円以下の場合は、2,808円(税込み))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

野村証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第142号

加入協会／日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会